

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成24年10月30日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学部医学研究科人間健康科学系専攻

職 名・学 年 修士1回生

氏 名 安 野 加 也 子

|            |   |           |           |
|------------|---|-----------|-----------|
| 助成の種類      | 平成24年度 ・ 若手研究者在外研究支援 ・ 国際研究集会発表助成   |           |           |
| 研究集会名      | 第20回世界婦人科連合会  |           |           |
| 発表題目       | Analyses of skin condition related to striae gravidarum occurrence in Japanese primiparae women                                     |           |           |
| 開催場所       | イタリア・ローマ  |           |           |
| 渡航期間       | 平成24年10月 6日 ～ 平成24年10月13日   |           |           |
| 成果の概要      | タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( ) |           |           |
| 会計報告       | 交付を受けた助成金額  | 200,000 円 |           |
|            | 使用した助成金額  | 200,000 円 |           |
|            | 返納すべき助成金額   | 0 円       |           |
|            | 助成金の使途内訳  | 往復航空券     | 155,560 円 |
|            |   | 宿泊費       | 44,440 円  |
|            |   |           |           |
|            |   |           |           |
| 当財団の助成について | 交通費などとても高額なため学生にとって国際学会に出席するということは大変難しい事です。しかし貴財団の助成によって今回参加することができました。貴重な機会をご支援いただきとても感謝しております。                                    |           |           |

集会名 The 2012 FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics

(第20回世界産婦人科連合会)

開催場所 イタリア (ローマ)

開催期間 平成24年10月7日 ~ 平成24年10月12日

#### ・研究集会の概要

International Federation of Gynecology and Obstetrics (FIGO) は、1954年に設立され、産科婦人科領域における高い知識や技術を有する専門家や、専門団体が所属する国際団体である。そして、高度かつ最先端の情報や技術について学び、情報交換の場を目的として3年ごとに国際的な学術集会を開催している。本学術集会では、世界各国より医療分野で活躍している産科婦人科医師だけでなく、産科婦人科医療に関わるコメディカル方々も多く参加する。また、様々な分野で活躍している先生方の教育講演や講習が企画され、研究者による発表も約5000題が予定されている。

研究テーマである「妊娠線の発生メカニズムの解明と予防法の確立」にとって、本学術集会は最先端の知見を得ることができ、今後の研究活動への多大なる一助を担うことになると考え発表と参加することにした。

研究成果を報告することにより、様々な意見交換の場となる。そして今後の研究を遂行する上での助言をいただくことができ、大変貴重で有意義な経験になることが期待できる。

#### ・発表内容の概要

Analyses of skin condition related to striae gravidarum occurrence in Japanese primiparae women (日本人妊婦における妊娠線の発生と肌状態との関係の分析) という題目でポスター発表を行った。

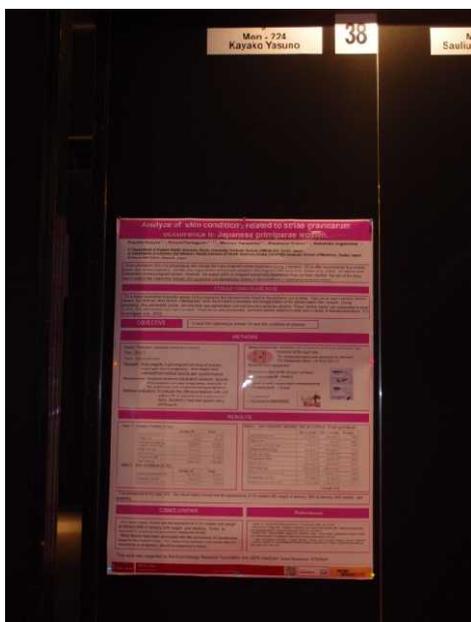
妊娠後半期に起こる皮膚トラブルとして妊娠線がある。妊娠線とは、臨月近い妊婦の腹部の皮膚の真皮や皮下組織にできる亀裂のことで、妊娠6・7ヶ月以降に主として腹部・乳房・大腿などに出現し、妊婦の40%以上に発症するといわれている。現在、一般的に唱えられていることとして妊娠線ができやすい体質は「皮下脂肪が厚い・小柄・多胎妊娠・経産婦」があげられている。予防策としては「体重の急激な増加を防ぐ・保湿クリームなどを使って肌を保湿すること」があげられている。しかしいずれも100パーセント妊娠線を予防することはできない。また近年、美容専門医院では独自のレーザーを使い真皮層に熱を加えて皮膚自体を引き締める治療が行われているが完全に妊娠線を消すことはできない。

妊娠線はできてしまったものを治療するよりも予防することの方が重要であると考え、まずは今回この予防策の確実性を調査するために156名の妊婦に協力してもらい研究した。

結果として、この一般的にあげられている「体重の急激な増加を防ぐ・保湿クリームなどを使って肌を保湿すること」という予防は効果がないことがわかった。

妊娠線出現には多くの因子が関与していると考えられるため、今後はホルモンと妊娠線との関係について研究していく予定である。

今回のポスター発表を通じてインドの方と意見交換をすることができ、大変有意義な機会を持つことができた。



ポスター



学会会場